

HOLONIC 2025 一個と全体の調和を図る

「HOLONIC(ホロニック)」とは「部分と全体の調和」あるいは「全体は部分の総和に勝る」といった意。個々の作家の表現はそれぞれの理想を追求しながら、同時に触発しあい、また共鳴することによって生まれる「総和」としての相互関係が展示空間に立ち現れることを企図している。2012年に川越市のギャラリーから始まった本展は、会場を新宿に移し、新メンバーを迎え入れながら14回目の展示を迎える。



「森の気一薄月と深山幽谷」
米唐楯(スプルーース)にアクリル彩色、色鉛筆、水彩、油彩
上部-薄月 w129.1 x h105 x d11cm
下部-深山幽谷 w197.2 x h84.8 x d11cm
2017年

細川 貴司 Hosokawa Takashi

森や樹々の景色を見ると、幼少期の記憶が体感とともに蘇り、その情景をもとに木の支持体を活かした絵画表現を探求している。影らみのある支持体と記憶の風景が交錯し、独自の視界空間が生まれる。木目の揺らぎが波紋や空気の動きを想起させ、森の生命力や幽玄な気配を内包し、自然と体感が交差する世界を描いている。



「忘却と想起-24#06」 合板、吸水性地、銀箔、雁皮紙にプリント
h27.2 x w27.2cm 2024年

北村 真行 Kitamura Masayuki

印刷が施された極薄い和紙(雁皮紙)の背面には鈍く光る銀箔が施されている。箔は画面内部より逆照射する「光」のメタファーでもある。「物質」と「イリュージョン」。この相反する関係性が関心事として、常に自分の眼の前にある。



HOLONIC展 関連ワークショップ

「古典技法-銀筆で描く-」 講師:北村 真行

3月22日(土) 13:00-15:00

銀筆とは、純銀を芯材とした素描材料のことです。16世紀に鉛筆が登場するまで、ルネサンス期の巨匠たちのデッサンに使用されてきた古典材料のひとつです。身近なモチーフを観察素描することを通して、古の忘れ去られた技法に触れてみましょう。

2025年3月22日(土) - 28日(金)

10:00 - 17:00

■初日22日は開廊時間特別延長19:00迄

■最終日28日は15:00迄

本館3階/ロビーギャラリー



KEIO PLAZA HOTEL TOKYO

京王プラザホテル 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

TEL.(03) 3344-0111 www.keioplaza.co.jp



京王プラザホテル
ロビーギャラリー



YouTubeチャンネル
「グループHOLONIC」



「重なる形-形-辺」 麻布、糸、アクリル
h29 x w28x d2cm 2024年

出射 茂 Idei Shigeru

重なる形シリーズの新作を出品します。麻布の端切れを縫い込み袋状にして板を中に封入しその板の硬さと布の柔らかさを対比させながら、矩形の支持体を作りました。布や板の物体としての形と、そこに描いた形の複合性・重層構造がさざなみを作り、時には大波やうねりもやって来ないかと期待しながら制作しています。



「2024 木 06」
油彩 テンペラ/パネル/アゾール/ハ
h32 x w28.4cm 2024年

坂本 匡之 Sakamoto Tadayuki

まずアトリエに着くと4キロ弱の散歩に出る。それがスマホに記録されて歩数や距離が数字で残されると、なぜか「歩いた」事実よりも残った数字の方が力を持つように思えてくる。描くことは自分の時間の残し方と意識してから、「残す」とは一体何なんだろうと考える。きっと「絵」も自分から離れて自分でも分からない「別の存在」になっていくのだろう。



「La vida II」
パネルに和紙、水性絵具
h125 x w98.5cm 2024年

笹井 祐子 Sasai Yuko

La vida(生命)は、帰国してからいとおしく思えてならなかったメキシコの光、太陽、神話などを心象風景的に描いたもの。そのイメージの中のメキシコの風光は、なんとと色彩豊かであったことか。



「CHAIR 2025 chairs waltz」
ポリエステルフィルム転写
h25 x w47cm 2025年

山本 剛史 Yamamoto Takeshi

人の生活の機能のもとに生み出され、「用の美」のソリッドな美しさを体現する椅子は、私にとって果て無いモチーフであり続けることに変わりはない。ただ新たに最近では、モチーフそのものから少し視点を変え、あえてそれを取り巻く景色や気配の中に分け入り、心惹かれる秘密を求め、表現したいと思いはじめている。ソリッドな存在と健気さがどれほどの有機的な物語に包まれてあるか、ということに目を向けてみたい。



「箱と人2024-5」
キャンバスに油彩、パステル
h80 x w100cm 2024年

青木 聖吾 Aoki Seigo

この世界で確かなものは何だろうか?我々の身体は絶えず壊され生成されていく、生きるという事は破壊と生成を繰り返す事なのかもしれない。私にとって絵を描く事はこの世界の成り立ちを問ひかけ、また視覚化する事でもあるのです。

■会場： 京王プラザホテル本館3Fロビー

■定員： 12名 *定員になり次第締切とさせていただきます。

■参加費： 3,000円(材料費込・当日支払)

■持参品： 画面(ハガキ大)、描画材等はこちらで用意します。各自描きたいモチーフ(小物)や画像を持参してください。

■お申込： 3月16日(日)、17日(月)の2日間 11:00-17:00

*1名様1枠の受付となります。

電話申込(先着順)京王プラザホテルロビーギャラリー

☎03-5322-8061